

## 園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。本年度も、毎週金曜日の午後に開催している学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループの中で、季節に合わせて園芸療法プログラムを実施した。担当者は、事務スタッフである梅原と舂井、カウンセラーの筆者の三人で、苜リウムのプログラムには、カウンセラーの長谷が講師として関わっている。

金曜Reアワーでの園芸活動を報告する。サツマイモ畑の事前準備として、スタッフが四月下旬に肥料散布と畝作りを行った。ゴールデンウィーク前ということもあり店頭購入が難しかったため、今年度はサツマイモの苗（ベニハルカ二〇本）を初めてネット注文を試みたところ、思った以上に早く商品が届いたため、五月に植える予定を急遽前倒しして四月二十八日の別プログラムの際に苗植えを行わねばならなくなった。参加者は五名（内リカレント生三名）に協力してもらい、学外に出かける内容のプログラムの、出発前に苗植えを行った（写真①）。また、五月一九日に園芸プログラム「春のガーデニング」を開催する予定であったが、雨天のため室内プログラムに変更した。後日



写真② プランター野菜



写真① サツマイモの苗植え

スタッフが、五月二二日に落花生四株とカボチャ三株の苗を畑に植え、五月三日にミニトマト四株、つるなしインゲン二株、シソ一株、万願寺トウガラシ二株の苗をプランターに植えた。相談室を訪れる学生が気軽に植物の成長を目にすることができるよう、プランターは一八号館入口の駐車場に配置した（写真②）。

このように前期は、ネット注文の不慣れと悪天候のため、園芸プログラムを予定通りに実施できない日が続いた。

五月二四日に昨秋植えていたタマネギとシソを収穫した。これらの野菜を使って六月のReアワーの時間にピザを焼き試食をした。も

ともとの予定では六月二日であったが、台風で午後三限以降が休講となり、翌週に陶芸プログラムと同時進行で行った。参加者は一名（内リカレント生三名）であった。ピザは二種類で、イタリアンピザの具にはマッシュルーム、ベーコンと収穫したタマネギを使い、和風ピザの具には、シラス、ネギ、餅、海苔収穫したシソとタマネギを使った。その日初参加で、自分の陶芸作品を作っていない女子学生二名が中心となってピザ作りを行い、陶芸作業を終えた学生たちに振る舞う形となった。作る工程を楽しむことに加え、自分たちが作った料理をおいしそうに食べる人たちの笑顔と感謝の言葉を得ることができ、女子学生たちは貴重な時間を過ごすことができたと思う。「作るのも食べるのも楽しかった」と話す彼女たちの笑顔が印象に残っている。三年ぶりの調理実習は大成功であった（写真③）。

後期に入り、一〇月二七日にサツマイモと落花生を収穫し、ホームタマネギの球根の植え付けを行った。参加学生は二名と少人数であったが、「イモ堀り幼稚園以来。今月のReアワーの中で一番楽しみにしていた!」と話し、和気あいあいと土いじりを満喫していた。当日後半にさしかかり天気が急変し、強風と強雨のため、早めに作業を終わらせなければならなくなったが、その後室内で落花生の茹で方やベニハルカの料理方法については話が盛り上がっていた。今夏は雨量が多かったため、サツマイモは七〇個と数が多いもののサイズが小ぶりで、少々残



写真④ サツマイモ収穫



写真③ 手作りピザ

念な結果となった。一方、落花生の方は九〇個と豊であった（写真④）。収穫したサツマイモは、一二月二四日の料理プログラム「レッツ！クッキング」で、ブリヤキノコ類と一緒に季節の炊き込みご飯の具として使用した。とても甘くホクホクした食感に仕上がりが好評であった。参加者は七名であった。

また、昨年から継続して前期と後期に一回ずつ「苦リウムを作ろう」を実施した。七月一四日に一三名（内リカレント生三名）、一〇月六日に四名（内リカレント生一名）の学生が参加した。苦リウムとは、苦のテラリウムのことで、苦を使って、ガラス容器の中

に小さな世界を作る。苔以外に土、水、石、人形や動物のフィギュアを用意する。まず容器に高さ1cmになるくらい土を入れ、土が固まって動かなくなるまで水を吹きかける。地面に傾斜を作りたかったら、土を足して傾斜を作り、再度水で固める。その後苔を植えていくが、苔の種類によって植え方が異なる。短い苔は土の上に置き、高さのある苔は、下部を尖らせピンセットで土に差し込んでいく。その後は好みで、石やフィギュアを加えて完成である。手入れは、定期的な霧吹きをすることと伸びてくる黄色い部分をカットすることだそうで、生きている植物なので、一か月後、二か月後と成長する姿も楽しめる。苔は身近な存在だが、その生態については知らないことが多い。筆者も今回、初めて「苔は土から栄養を取らない。空気中から取り込む」ということを知り、大変驚いた。苔は世界で約二万種、日本だけでも二〇〇〇種以上あるらしい。その中で今回はヤマゴケ、シッポゴケ、コツボゴケを用意したが、それぞれの外見や性質にはっきりと違いがある。シッポゴケはフサフサとした馬のしっぽのような美しい葉を持ち、背丈が高い。コツボゴケは、透明感のある緑色の葉が人気で、水をあげるとキラキラ輝いて見える。タマゴケは丸い胞子体を付けることから命名された。自分で選んだ苔の特性を知った上で、日々の手入れをしていくと、一か月後、二か月後と成長する姿



写真⑤ 苔リウム制作



写真⑥ 苔リウム作品

を楽しむことができ、愛着感が湧いてくる。苔に触ること自体初めての学生ばかりであったが、各自自分のペースで制作に熱中し、「ネットで見た苔リウムを参考に作りたい」「京都の庭園っぽいものをめざす」など、あらかじめ作りたい作品のイメージを固めて取り組む学生の姿が見られた(写真⑤⑥)。

今後の予定としては、一二月一五日に、バラやカスミソウ、カーネーションなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを実施する予定である。アレンジメントでは、個人の作品に加え、一人一本ずつ花を選び順番にオアシスにさしていく共同アレンジメントの製作も計画している。

今年度の大きな一歩は、コロナ対策による制限がなくなったため、収穫物を使った料理プログラムを三年ぶりに実施できたことである。また反省点としては、前期は悪天候と不慣れなネットショッピング利用によって、Reアワー実施日と園芸作業日をうまく合わせる事ができなかったことが挙げられる。加えて、夏の降水量が例年より多く、サツマイモ収穫にも残念ながら影響が出てしまった。現スタッフは園芸の専門家ではないため、試行錯誤を繰り返しながら園芸療法スペースの運営を行った。今年度の失敗体験を活かしつつ、来年の運営計画を立てていきたいと思う。これからも学生向けに園芸療法を継続して実施できていることに感謝しつつ、学生相談室という限られた場で、自分たちも楽しみながら学生に自然に触れ合う機会を提供できるよう努力していきたい。

(渡里千賀)